

日本古代史の謎のページの記述にあたって

このページは、個人的な勉強のため、調べたものをまとめたものです。
このため教科書的な事や通説と言われている事などは、違っている場合がありますが、あくまでも個人的な主観で取りまとめています。作成者：hiroshi.ishiyama

ただ単に日本人はいつ頃、どんな文化を持って、どこからやって来たのかを知りたくて調べはじめました。そしたら不思議な事がいっぱいあるではないですか
そして当初調べてみたいと思ったのが下記の九項目です。

その上地元の遺跡の人骨が、シベリア先住民族ブリアート人と一致したことなど驚きの内容を知ることでもできました。また偶然にも、歴史上に上がってこない、水戸徳川家によって、小生瀬村村民が皆殺しになった事なども知ることでもできました。

日本古代史には、謎がいっぱいです。いっしょに考えましょう。！

- ①古代の日本はどんな国だったのでしょうか
- ②本当に「倭国」の中心は「大和」にあったのでしょうか。
- ③志賀島の金印は、「かんのわのなの国王」と三段に読んでいますが、中国の金印・銀印で三段読みの印はありません。それなのになぜ志賀島の金印だけ三段で読んでいるのでしょうか。
- ④645年とされる「大化」は、本当に日本最初の年号なのでしょうか。
- ⑤中国の正史には『日出づる処の天子』は男性だと書かれています。しかし当時の推古天皇は女性です。ではこの天子とは何処の誰のことなのでしょうか。
- ⑥「倭の五王」たちは本当に近畿天皇家なのでしょうか。
- ⑦「磐井の乱」で乱を起こしたのは本当に筑紫の磐井だったのでしょうか。
- ⑧中国の正史「旧唐書」には、「倭国」と「日本」は別の国（別種）、と書かれていることをご存知ですか？
- ⑨中国の正史に7世紀まで記録されている「倭国」とは、今の内閣府に当たる「太宰府」が置かれていた九州にあったのでしょうか。

●いま科学的な古代史研究が次々に発表されています。

例えば、取手市中妻貝塚で発掘されたシベリア先住民族ブリアート人の人骨化石と柏原遺跡の交換可能なやり先につける細石刃（ハイテク替刃「マイクロブレード」）の発掘などがあります。ブリアート人については発掘された縄文人のDNAと国立遺伝学研究所DNAデータバンクとの照合の結果、取手市中妻貝塚で、発掘された人骨化石が、縄文人29人中17人のmtDNAが現在のシベリア先住民族ブリアート人と一致したことなど驚きの内容が報告されています。

6話：「年号」と「記・紀」を作った人たち（P11 参照）

●本当は怖い祝詞「大祓詞」

大祓は六月と十二月の末日に半年間の罪や穢（けが）れを祓（はら）うものです。正式には、六月晦大祓祝詞ミナズキのツゴモリのオオハラエのノリトと言います。

大祓詞は大まかに、天皇の命により行った為に身に付いた、罪、災い、汚穢（おえ）を、祓の神々に移し、海原に出て流し捨て去る、という内容です。

天津罪と国津罪があります。特に国津罪には、天孫降臨の侵略戦争の時と考えられる、ぞっとするような残酷な罪があります。

これらの罪も天皇の命により祓い流す事ができるという誠に身勝手と言わざるを得ない考え方で構成されています。これが大祓の基本的な考え方になっているようです。

なお今日では形骸化して、神に向け奏上していますが、かつて「大祓詞」は大祓詞式の参列者（天皇の為に働いた者）に向けて読まれていました。

このように「祝詞」には、古事記・日本書紀には、書くのをはばかるような記録があちこちに

書かれています。3話：大祓詞・大祓式（おおはらえしき）とは を参照。

なを参考にしている資料などを記します。

史 書：

- 1) 古事記「原文」「訳文」
- 2) 日本書紀「原文」「訳文」
- 3) 続日本紀「原文」「船・訳文」
- 4) 倭人伝「原文」「訳文」
- 5) 三国史記「訳文」
- 6) 三国遺事「訳文」
- 7) 万葉集「訳文1」「訳文2」
- 8) 常陸国風土記「訳文」「研究1」「研究2」

歴史家：

- 1) 安本美典「邪馬台国論争批判」
- 2) 古田武彦「邪馬台国論争は終わった」
- 3) 高橋通「倭国通史」
- 4) 古賀達也「九州年号と学問の方法」
- 5) 佐藤章司「古代史探訪」
- 6) 正木裕「評制は誰が実施したか」
「壹から始める古田史学」
- 7) 室伏志畔「倭国とはなにか」
- 8) 内倉武久「放射性炭素による年代測定」

D N A：

- 1) 日本人特有の遺伝子とは
- 2) わかってきた縄文人のDNA

考古学：

- 1) 奈良の都の木簡
- 2) 日本最古の木簡
- 3) 長屋王木簡
- 4) 中妻遺跡（取手市指定文化財一覧）へリンク
- 5) 柏原遺跡へリンク

動 画：

- 1) 「邪馬台国論争のポイント」
- 2) 「邪馬壹国への道」

日本古代史の謎 これまでのメインで掲載した資料は次のとおりです。2024.7.29 現在

- 1話：初めに（内容は順次更新）
- 2話：邪馬台国はどこにあったのか
- 3話：大祓詞・大祓式（おおはらえしき）とは
- 4話：日本の三古碑について
- 5話：日本人の神は蛇だった ①蛇信仰 ②神の正体
- 6話：「年号」と「記・紀」を作った人たち
- 7話：小生瀬村の惨劇
- 8話：万葉集の中の日本紀
- 9話：倭人伝の最終目的地
- 10話：「北海道」「北陸道」の終着点
- 11話：倭の五王とは誰か（常陸の国風土記にいた「倭武天皇」）
- 12話：①金印「漢委奴国王かんのみどこくおう」について ②金印はどこから来たのか！「志賀島小幡」
- 13話：はづくにしらすめらみこと(九州からの侵入者・神武と大和盆地の統一者・崇神)
- 14話：銅鐸（どうたく）について考える
- 15話：日本人と暦と言霊と
- 16話：神話より前にあった話（まず人話ありて、次に神人話、そして神話あり）
- 17話：盗まれた蝦夷の神話（朝廷の勢力範囲の考証）
- 18話：隋・唐へ「記・紀」の付度（郡評論争と大化の改新）
- 19話：古層の神名「ち」「け」「そ」「くい」（①人話→②神人話→③神話 の順にうまれた）
- 20話：「たった四文字の記念碑」日本中央の碑（弥生期以前「日本」の中央は蝦夷国だった。）
- 21話：海幸彦と山幸彦（隼人との関係を探る）
- 22話：ホントは怖い祝詞（天孫降臨の残像）
- 23話：那須国造碑について（銘文の、「永昌元年（689年）」とは）
- 24話：銅鐸の民の足跡（どこへ消えたのか）
- 25話：「古事記」編纂の目的
- 26話：邪馬台国連合の所在と範囲
- 27話：九州年号について（二中歴から考える）
- 28話：（改訂版）魏志倭人伝の最終目的地
- 29話：（改訂版）古層の神名「ち」「け」「そ」「くい」「くま」
- 30話：日本古代史の謎
- 31話：日本の原初の神
- 32話：「蝦夷国」を考える
- 33話：稲田騒動（庚午事変）
- 34話：銅鐸の謎について
- 35話：考古学と黄門さま
- 36話：出雲からやってきた神々
- 37話：聖徳太子の虚像
- 38話：銅鐸の謎を探る（日本書紀に記事がない銅鐸の秘密）
- 39話：隠蔽された「古事記・日本紀」を探る
- 40話：浦島説話（銅鐸王国最後の末裔の話）
- 41話：縄文人は朝鮮半島にまで住んでいた（日本人と韓国人はどこからやって来たのか）
- 42話：明治天皇すり替え説
- 43話：天武は「近畿天皇家」を篡奪した
- 44話：常陸風土記と行政制度の変遷
- 45話：倭国に仏教を伝えたのは誰か
- 46話：初めてと始まりの継体
- 47話：銅鐸文明の人びと（天皇前史について）
- 48話：古代に「北海道」はあったのか
- 49話：日本語におけるm音とb音の交代現象
- 50話：壬申の乱の必要性と太宰府
- 51話：郡評論争と大化改新
- 52話：古代DNAが解き明かす「日本人」
- 53話：環太平洋の縄文人
- 54話：天皇陵はなぜ造られたか
- 55話：銅鐸民族